

会議の名称	第11回子ども・子育て会議		
開催日時	平成29年8月24日(木)	開会	10時00分
		閉会	12時00分
開催場所	岩出市総合保健福祉センター		
議長(委員長・会長)の氏名	桑原義登委員		
出席者(委員)の氏名	岩橋美奈委員、江頭忍委員、福元元章委員、土生川覚弥委員、赤松佳美委員、松本千賀子委員、土居岐久代委員、中谷博昭委員、村田実委員、桑原義登委員、金川めぐみ委員、山本正人委員、秦野吉弘委員		
会議事項	議題	会議結果	
	① 市町村子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて ・ 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと現状 ・ 子ども・子育て支援事業の量の見込みと現状 ② その他	「会議の経過」のとおり	

## 会議の経過

### 議題・決定又は確認事項等

#### 【開会】

10時00分

#### 【部長あいさつ】

#### 【委員紹介】

事務局より委員出欠確認

#### 【議事概要】

事務局：議案①市町村子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについての1点目について説明

① 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと現状

委員A：3号に係ることで、年度ごとの出生数の集計やそれに対して、0歳から2歳の何割くらいの方が保育を希望しているかというようなデータはあるのか。

事務局：今具体的な数字は持ちあわせていないが、年間の出生数は440人くらいとなっており、出生数の減少はそれほどない。

委員A：出生数はそれほど減っていないということで、0歳が年々増えているということは、預ける人が増えてきているということだと思うので、そのあたりのデータを分析したら見えてくるものがあるのかと思うのですが。いずれにしろ希望者の割合が増えているのは間違いないのか。

事務局：はい間違いありません。データ分析については次回会議でお伝えさせていただきます。

委員B：一つの提案になるかどうか分からないが、今の子どもの現状をみて子育てをしていって子どもをしっかりとかかえこんでやっている親御さんの子どもは非常におだやかに育っているように感じている。結果的に子育ては楽しく子どもがおだやかにいられると親もおだやかでいられるような気がすると思う。目の前の待機の子どもがいるってことだけに視線をあてていくだけじゃなくもっとその背後にあるバックグラウンドをしっかりと行政として調整していくとか対応していくとかそういうことによって急激に減らないけれどもたと

え何人かでも待機児童対策になるのではないか。

委員 C : 0 歳児、1 歳児の保育が確保できない岩出市の一番大きな要因は保育士確保、人なのか。それとも施設なのか。他の自治体では、独自に保育士を雇って補助金出すというような施策を実施している。岩出市では独自にそのような補助金を出すということは難しいかもしれないが、長期的に考えたときに長年の経験をもって、岩出ですっと保育をしてもらって、保育士さんが根付いてくれるというのが理想でないかと思うが。

事務局 : 保育が確保できない原因の一番は施設よりも、保育士が確保できないので定員を増やせないという保育施設の方が多い。特に今は、クラス担任以外に発達に課題をかかえた子どもさんに保育士を配置するため、どうしても保育士が不足してしまうといった現状がある。

委員 A : 保育士が雇用できなくても、和歌山大学の学生の協力なんかも一つの方法でないか。また、最近は災害支援なんかで高校生、中学生を地域が必要な家庭の中に参加してもらおうというような取り組みもされているところがあるので参考にしてみようか。

委員 D : 待機児童に 0 歳児が多いが、保育士が家庭でみるようなそういうふうな仕組みがあったと思う。和歌山ではあまりやっていない気がするが、その可能性は難しいのか。

事務局 : 家庭的保育という仕組みはあるが、家で保育するとなるとやはり事故につながる可能性もあるので市が積極的に実施するのは課題が多いと考えている。

委員 B : 利用料はどうなっているのか。

保育額が 0 円という方が結構いると聞くが、0 円というのはどういう方か。

事務局 : 今の岩出市の基準でいくと 0 円という方は、ひとり親の方や非課税世帯といった所得が低い世帯、兄弟姉妹が上に 2 人以上いるような世帯、生活保護受給世帯、兄弟姉妹が就学前で年収 3 6 0 万円未満世帯が対象になります。国の方が近年、軽減制度を拡充しているので、0 円になる方は年々増えてきている。

委員 B : それは 0 円にしなければいけないのか。

事務局 : 国が実施する制度を市で変更することはできない。和歌山県が少子化対策を目的に実施する「紀州 3 人っ子保育料支援施策」について、岩出市は、3 歳未満の無償化のみ実施しているが、岩出市、橋本市以外

は3歳以上も含め全部無料になっている。少子化の進行が早い市町村では積極的に和歌山県の制度を活用して保育料無償化を進めている。

委員B：現状を見ていると、母親の社会進出というより利用料が無料になるから子どもを預けているというように見える方もいるのかと感じている。その方が家庭保育を選択するという現実ができれば、本当に保育を必要とする方が少しでも待機にならない可能性が増えると思う。

委員D：待機児童対策はもとより、子ども子育て支援法の国の施策は選択肢がある。先ほどの皆様の話から、和歌山県の他市町村とは少し人口減少や少子化などの推移も違う岩出市では、和歌山県内ではモデルはないかを感じる。モデルは他府県で探し、岩出市が和歌山県でモデルになるような取組を考えていってはどうか。

事務局：3号の確保量が不足しているという現実がある中で、皆様からご意見いただいたように、どのようなニーズが増えてきたという原因も分析しながら、確保対策を考え次回会議で対策案と計画変更案をお示したい。

事務局：議案①市町村子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについての2点目について説明

② 子ども・子育て支援事業の量の見込みと現状

委員E：計画を作る時の計画の見込み確保量の書き方っていうのは特に国の方は何も示していなかったということか。

事務局：確保量の書き方については、国から示されていた事業と全く何も示されなかった事業とがあった。

委員E：今回の見直しの際に、どの部分は何を示しているのかをはっきりさせた上で、岩出市仕様の適切な書き方にしてはどうか。

委員F：赤ちゃん訪問事業について、本当にいい事業だと感じる。赤ちゃん訪問以降の子育てについてのフォローはどのようになっているのか。

事務局：この事業は保健推進課の方で実施しており、保健師なり非常勤の助産師が出産後2か月から4か月の間に各家庭を訪問する。その後については、4か月、7か月、1歳6か月、3歳6か月の計4回の乳幼児健診と、10か月と2歳6か月、計2回の健康相談を実施している。また、健診や健康相談の中で特に注意が必要だというような子どもや家庭については、保健師が個別で相談を受けている。

委員G：学童保育の人数が増えてきて対応するスタッフの課題はあるのか。正規職員以外のボランティアを入れている市町村もあるが岩出市の考えは。

事務局：現在、シルバー人材センターに委託しており、指導員については高齢の方が多いため、学習支援して下さる学生のボランティアさんがいてくれたら助かるという話は常にしている。委託先と協議しながら前向きに取り組んでいきたい。

委員H：延長保育で岩出市は7時半からになっているが、他市町村は7時から実施しているところもある。今後、取り組んでいく計画はあるのか。

事務局：当初計画立てる際のニーズ調査で時間のニーズも聞いている中で、市内各施設7時半から最長夜の7時までの実施になっている。確かにそういう中で、もう少し早くという声も実際窓口で聞いたこともあり、他市町村で7時から実施というところも多くなってきている。また、夜も8時までというような施設もあるので、今後の研究、課題であると思っている。

委員I：子育て支援センターについて、あいあいセンター、岩出保育所の2か所で実施しているが、以前、上岩出の保育所がそういう機能を持っていたと認識している。東方面にそういうところがあればいいと思うが市の考えは。

事務局：子育て支援センターでは以前、「保育所に遊びに来ませんか」という事業を各保育所で実施していた。その中の1件が上岩出保育所だったと思うが、年々人が集りにくくなり、平成23年度に誰でも1か所に集まりやすいように、支援センターを岩出保育所に加え、あいあいセンターでも実施するようになった経緯がある。

委員J：学童保育のあいあいセンターについて、外で遊ぶところがなくて夏休みに3年生や4年生くらいの男の子がセンター内で走り回り少しかわいそうな気がするので、環境改善を考えてもらいたい。

委員K：学童保育について、親には学童保育に行くと言って行かずに帰ってきて友達の家で遊んでいる子どもを見かける。子ども達の安全上気になるので、学童保育の出欠について一度検討してもらいたい。

委員長：色々な貴重なご意見がありましたので、事務局の方で十分検討してもらい改善できるものは対応してもらいたい。

#### 【その他】

事務局：平成29年9月末の委員改選にあたり推薦団体への依頼説明を行う。

#### 【閉会】

12時00分閉会